

菅波茂代表(65)に1年間にわたる被災地での活動を振り返っても
ら、その評価や今後の課題などについて聞いた。(大江恵里奈)

菅波代表に聞く

「A M D Aは震災翌日に仙台市入り。菅波代表も被災地で約2週間活動した。」

「被災者は発生後3日ほどが最も心細く感じる。何としても翌日には

被災住民交流も重要

スタッフを現地入りさせたかった。私は13日から宮城、岩手で避難所や地域を回って医療活動を行った。近所の寺や神社に避難した人も多く、行政から指定されていない避難所がたぐさんできている



東日本大震災1年の活動を振り返る菅波茂代表

「思っ」

「阪神大震災でも医療支援を行った。東日本大震災との違いは、

「展開してきた支援活動が現段階でどう評価する。」

「ズを分析。公的な支援が行き届きにくい避難所にまで支援を広げると、民間ならではの活動

面積が甚大。阪神大震災に現地入りし、素早い対応ができた。医療チーム

「初期段階は発生翌日に現地入りし、素早い対応ができた。医療チーム

「長期的な視野での支援が必要と思うが、今後

「お年寄りに対する支援に目が向きがちだが、避難所では子どもたちもストレスを感じている。」

「被災者同士の通じ合うものがあり、被災地間の住民交流も重要になる」

「被災地に行こう。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」

「被災地に行こう。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」

「被災地に行こう。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」